

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

神辺西中学校区	校番 74	福山市立神辺小学校
最終更新日		2025 年（令和 7 年）4 月 1 日

I 福山市

ミッション ビジョン	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、 日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
---------------	--

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	自己を認識する力／自己選択できる力 粘り強くやり切る力 挑戦し続ける力 表現力 コラボレーション力
1.長期欠席者の減少に向けた取組の推進。	・「学習を通して考えたことや振り返ったことを書く」94.0%（小）、「授業で勉強した事柄をいくつか組み合わせて解く」87.2%（中）と、学んだことを使いながら学習に向き合う児童生徒が増えている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	知：自分の考えを持ち伝え合う子 徳：人の気持ちがわかり協力できる子 体：健康でねばり強い子
2.学力調査結果を分析して具体的な改善策を確認して成果につなげる。	・小中ともに児童生徒が自ら動き、生活をよりよくしようとする姿が見られる。 ・「体力づくりに取り組んでいる」の肯定評価が84.4%である。（小）	中学校区として統一した取組等	・神辺西中学校区でめざす授業の姿を共有（「書く」ことを中心とした「考える」授業づくり） ・児童生徒による生徒指導規程（生活のきまり）の見直しの継続 ・神辺西中学校区における「資質・能力」に基づく個に応じた指導の実施

III 自 校

ミッション		育成する力 資質・能力	自己を認識する力	思考し判断し表現する力	試し、挑む力
伝統を現在に生かし、未来を生き抜く人を育てる。		めざす 子ども像	• 学びや生活を通して自己を振り返ることで、学んだことや良さ、がんばり、課題を実感できる子ども。	• じっくり考え、自分の考えをもつ子ども。 • 互いの考えを伝え合い、対話を通して学ぼうとする子ども。 • 学習や生活の課題に対して、解決の方法を考え行動する子ども。	• 学習や生活の様々なことに対して、試行錯誤を繰り返したり、挑戦してみようとしたりする子ども。
学校教育目標					
自考自動　ー自ら考え、自ら行動するー					
現　　状		研究	テーマ	「書く≡考える」⇒「伝える」学びの実現	
• 2024 全国学力調査では、全国平均に対して、国語-0.8 算数-0.6 であった。学力調査において無回答率が低く、記述式問題全般において全国平均を上回っており、考えること、そして考えを書くことの定着に成果が見られる。図への書き込みや、相手の考えの意図・意味を考えるという点に課題がある。また、相手意識を持って分かりやすく表現することに苦手意識を持つ児童が多く、表現力及び自分の考えの表出に課題がある。 • 生活目標の設定及び振り返りを通して、自分たちの行動を見つめ直し、行動に移すことができた。また、縦割り班そうじに取り組むことで、自分たちのそうじを振り返ったり、教え合いを行ったりすることができている。 • 振り返りカード等の自己の運動を振り返る機会や、様々な運動ができるような環境を通して、児童は運動に取り組むことができている。 • 自ら考え、行動に移していくリーダーの育成に課題がある。			内容等	学び手が「選択」し「自己決定」したことを「伝え合う」授業 • 「書く」と「対話」を通して、自分の考えを再構成する授業を展開する。 • 「書く≡考える」内容を具体化（何を書き、何を考えるか）した教材研究を行う。 • 学びの選択肢を取り入れることで、児童がそれぞれ学びを進められるようにする。 • 「伝える」ことで、相手意識を持った表現力を高めたり、自分の考えを見直したりすることができる場を取り入れる。	
		めざす授業の姿	「書く」と「対話」を通して自分の考えを整理し、共に学ぶ楽しさを味わう授業。 「伝える」ことを通して、自己の表現や考えを見直す授業。		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立神辺小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力を入 れ評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力を入 れ評価	達成 評価	総合 評価
1	「書く⇔考 える⇒伝える」学びを 実現する。	★	継 続	児童が自己の 学びを選択し、 伝え合うこと を通して、自己 の考えを深め たり広げたり することがで きる授業を実 現する。	①単元や授業の中 で、児童一人ひ とりが選択・自 己決定できる場 を設ける。 ②個の学びを他者 と伝え合う場を 設定し、学びを 紡ぐことで、個 の学びの再構築 を図る。	・「児童が選択・自 己決定する機会 を設けた授業づ くり・教材研究を 行っている」授業 者の割合を80% 以上にする。 ・「他者と考えを伝 え合うことを通 して、自己の考え が深まったり広 がったりした」と 感じる児童の割 合を80%以上に する。								
2	「書く⇔考 える⇒伝える」学びを 実現する。	★	継 続	児童が自分や 相手のことを 考え、自分の行 動を振り返り、 自ら行動に移 すことができ る。	①毎学期1つの生 活目標を設定 し、学級活動で 自らの行動を振 り返る時間を設 ける。 ②段階的にあいさ つの在り方を考 え、自ら進んで あいさつができ る児童を育成す る取組をすすめ る。	・学校全体の生活目 標の達成度を8 5%以上にする。 ・あいさつをされた ら、あいさつを返 すことができる 児童を80%以 上にする。 (中間：あいさつをさ れたらかえすこと ができる児童。最終： 自分から進んであい さつができる児童。)								

4	「書く≠考える⇒伝える」学びを実現する。	★	継続	児童が積極的に運動に親しみ、体を動かすことが楽しいと実感しながら体力向上を図ることができる。 ①積極的に運動に親しむことができるように、体育委員会を中心に遊びの提案や運動コーナーの設置、運動のコツを資料として提示する。 ②定期的に体育の教材づくりや実技研修を行い、児童が運動についての自己理解の振り返りを書くことができるように視点を提供する。	・「運動に取り組んでいる」児童の割合を85%以上にする。 ・学期に1回以上、実技研修を行う。								
5	教職員一人一人が働き方を見直し、学び取組を推進する。		継続	教職員一人ひとりの働き方に対する意識の醸成を図る。 ①超過勤務40時間以内を目指し、部会や学年で見通しを共有し、互いに声を掛け合う。 ②ミニ研修（任意研修）等、教職員の関心や強みを生かした場づくりを工夫する。	・超過勤務40時間以内の職員90%にする。 ・職員アンケートにおいて、「職員との対話を通して学びを深めている」職員80%以上にする。								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。